

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第11項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2019年6月17日
【事業年度】	第50期（自 2018年3月21日 至 2019年3月20日）
【会社名】	株式会社キーエンス
【英訳名】	KEYENCE CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 山本 晃則
【本店の所在の場所】	大阪市東淀川区東中島1丁目3番14号
【電話番号】	06(6379)1111（大代表）
【事務連絡者氏名】	取締役経営情報室長 木村 圭一
【最寄りの連絡場所】	大阪市東淀川区東中島1丁目3番14号
【電話番号】	06(6379)1111（大代表）
【事務連絡者氏名】	取締役経営情報室長 木村 圭一
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第44期	第45期	第46期	第47期	第48期	第49期	第50期
決算年月	2015年3月	2015年6月 (3ヵ月 変則決算)	2016年3月 (9ヵ月 変則決算)	2016年6月 (3ヵ月 変則決算)	2017年3月 (9ヵ月 変則決算)	2018年3月	2019年3月
売上高 (百万円)	334,034	88,050	291,232	96,352	316,347	526,847	587,095
経常利益 (百万円)	186,347	48,615	156,905	47,943	173,436	298,860	319,860
親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	121,063	31,521	105,645	32,475	120,680	210,595	226,147
包括利益 (百万円)	127,165	33,216	95,624	32,022	122,077	211,708	225,473
純資産額 (百万円)	923,375	950,514	1,043,043	1,065,959	1,184,552	1,381,057	1,588,309
総資産額 (百万円)	996,688	998,078	1,102,018	1,115,670	1,250,591	1,486,222	1,682,357
1株当たり純資産額 (円)	7,613.65	7,837.45	8,600.54	8,789.52	9,768.26	11,388.79	13,097.93
1株当たり 当期純利益金額 (円)	998.20	259.91	871.10	267.78	995.11	1,736.65	1,864.91
潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	92.6	95.2	94.6	95.5	94.7	92.9	94.4
自己資本利益率 (%)	14.02	13.46	14.13	12.32	14.30	16.41	15.23
株価収益率 (倍)	34.06	32.80	25.22	31.98	33.89	37.13	36.51
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	114,310	513	105,970	21,206	121,660	202,934	209,380
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	104,350	20,422	29,582	203,501	78,254	280,208	205,350
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	7,994	6,077	3,095	9,106	3,484	15,203	18,221
現金及び現金同等物の 期末残高 (百万円)	29,681	45,083	115,913	332,292	372,615	280,260	265,894
従業員数 (人)	4,444	4,628	5,003	5,299	5,673	6,602	7,941

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

3 2015年6月12日開催の第44回定時株主総会決議により、第45期は2015年3月21日から2015年6月20日までの3ヵ月間、第46期は2015年6月21日から2016年3月20日までの9ヵ月間の変則決算となっております。また、2016年6月10日開催の第46回定時株主総会決議により、第47期は2016年3月21日から2016年6月20日までの3ヵ月間、第48期は2016年6月21日から2017年3月20日までの9ヵ月間の変則決算となっております。

4 第45期、第46期、第47期及び第48期の自己資本利益率及び株価収益率は、12ヵ月に換算して算出しております。

5 2017年1月21日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っておりますが、第44期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額を算定しております。

6 参考のため、第44期、変則決算ではない通常年度の連結累計期間（自 3月21日 至 3月20日）に揃えた場合の第45期（3ヵ月決算）と第46期（9ヵ月決算）の単純合計、第47期（3ヵ月決算）と第48期（9ヵ月決算）の単純合計、第49期、第50期の推移は以下のとおりであります。なお、1株当たり当期純利益金額は、12ヵ月間の期中平均株式数により算出しております。

回次	第44期	第45期 第46期 合計	第47期 第48期 合計	第49期	第50期
期間	自 2014年3月21日 至 2015年3月20日	自 2015年3月21日 至 2016年3月20日	自 2016年3月21日 至 2017年3月20日	自 2017年3月21日 至 2018年3月20日	自 2018年3月21日 至 2019年3月20日
売上高 (百万円)	334,034	379,282	412,699	526,847	587,095
経常利益 (百万円)	186,347	205,521	221,380	298,860	319,860
親会社株主に 帰属する 当期純利益 (百万円)	121,063	137,166	153,156	210,595	226,147
包括利益 (百万円)	127,165	128,840	154,099	211,708	225,473
1株当たり 当期純利益金額 (円)	998.20	1,131.01	1,262.89	1,736.65	1,864.91
営業活動による キャッシュ・ フロー (百万円)	114,310	106,483	142,866	202,934	209,380
投資活動による キャッシュ・ フロー (百万円)	104,350	9,160	125,247	280,208	205,350
財務活動による キャッシュ・ フロー (百万円)	7,994	9,173	12,590	15,203	18,221

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第44期	第45期	第46期	第47期	第48期	第49期	第50期
決算年月	2015年3月	2015年6月 (3ヵ月 変則決算)	2016年3月 (9ヵ月 変則決算)	2016年6月 (3ヵ月 変則決算)	2017年3月 (9ヵ月 変則決算)	2018年3月	2019年3月
売上高 (百万円)	269,948	68,229	228,875	76,965	245,624	430,701	458,423
経常利益 (百万円)	175,295	44,267	138,344	43,843	149,213	275,094	290,238
当期純利益 (百万円)	115,173	28,531	93,552	30,228	104,051	193,947	206,020
資本金 (百万円)	30,637	30,637	30,637	30,637	30,637	30,637	30,637
発行済株式総数 (千株)	60,801	60,801	60,801	60,801	121,603	121,603	121,603
純資産額 (百万円)	860,836	883,463	970,192	991,268	1,092,470	1,272,162	1,459,260
総資産額 (百万円)	921,093	917,696	1,014,602	1,025,596	1,139,483	1,354,644	1,528,715
1株当たり純資産額 (円)	7,097.99	7,284.58	7,999.84	8,173.64	9,008.92	10,490.79	12,033.73
1株当たり配当額 (内、1株当たり 中間配当額) (円)	200.00 (100.00)	50.00 (-)	150.00 (-)	50.00 (-)	75.00 (-)	100.00 (50.00)	200.00 (100.00)
1株当たり 当期純利益金額 (円)	949.64	235.25	771.39	249.25	857.99	1,599.37	1,698.94
潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	93.5	96.3	95.6	96.7	95.9	93.9	95.5
自己資本利益率 (%)	14.28	13.09	13.46	12.33	13.32	16.40	15.09
株価収益率 (倍)	35.80	36.24	28.48	34.36	39.31	40.32	40.08
配当性向 (%)	10.5	10.6	9.7	10.0	8.7	6.3	11.8
従業員数 (人)	1,988	2,063	2,013	2,160	2,121	2,253	2,388

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

- 3 2015年6月12日開催の第44回定時株主総会決議により、第45期は2015年3月21日から2015年6月20日までの3ヵ月間、第46期は2015年6月21日から2016年3月20日までの9ヵ月間の変則決算となっております。また、2016年6月10日開催の第46回定時株主総会決議により、第47期は2016年3月21日から2016年6月20日までの3ヵ月間、第48期は2016年6月21日から2017年3月20日までの9ヵ月間の変則決算となっております。
- 4 第45期、第46期、第47期及び第48期の自己資本利益率及び株価収益率は、12ヵ月に換算して算出しております。
- 5 2017年1月21日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っておりますが、第44期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額を算定しております。また、第48期の1株当たり配当額は、株式分割後の金額となっております。
- 6 参考のため、第44期、変則決算ではない通常年度の累計期間（自 3月21日 至 3月20日）に揃えた場合の第45期（3ヵ月決算）と第46期（9ヵ月決算）の単純合計、第47期（3ヵ月決算）と第48期（9ヵ月決算）の単純合計、第49期、第50期の推移は以下のとおりであります。なお、1株当たり当期純利益金額は、12ヵ月間の期中平均株式数により算出しております。また、第47期と第48期を単純合計した12ヵ月間の1株当たり配当額は、株式分割前と株式分割後の1株当たり配当額が混在するため記載しておりません。

回次	第44期	第45期 第46期 合計	第47期 第48期 合計	第49期	第50期
期間	自 2014年3月21日 至 2015年3月20日	自 2015年3月21日 至 2016年3月20日	自 2016年3月21日 至 2017年3月20日	自 2017年3月21日 至 2018年3月20日	自 2018年3月21日 至 2019年3月20日
売上高 (百万円)	269,948	297,104	322,589	430,701	458,423
経常利益 (百万円)	175,295	182,611	193,056	275,094	290,238
当期純利益 (百万円)	115,173	122,083	134,279	193,947	206,020
1株当たり 配当額 (内、1株当たり 中間配当額)	200.00 (円) (100.00)	200.00 (円) (-)	- (円) (-)	100.00 (円) (50.00)	200.00 (円) (100.00)
1株当たり 当期純利益金額 (円)	949.64	1,006.64	1,107.24	1,599.37	1,698.94

2【沿革】

年月	沿革
1972年3月	兵庫県伊丹市において当社取締役名誉会長滝崎武光がリード電機を創立。自動制御機器、電子応用機器の開発、製造販売に着手。
1973年4月	工場自動化用の各種センサを開発、製造販売開始。
1974年5月	株式会社に改組し、兵庫県尼崎市にリード電機株式会社設立。
1981年6月	本社を大阪府吹田市に移転。
1984年11月	本社を大阪府高槻市に移転。
1985年3月	アメリカに現地法人KEYENCE CORPORATION OF AMERICAを設立。
1985年9月	大阪府高槻市に製造子会社クレボ株式会社（現 キーエンスエンジニアリング株式会社）を設立。
1986年10月	ブランドと商号の統一を図るため、社名を株式会社キーエンスに変更。
1987年10月	大阪証券取引所市場第二部に株式を上場。
1989年12月	東京証券取引所市場第二部に株式を上場。
1990年5月	ドイツに現地法人KEYENCE DEUTSCHLAND GmbHを設立。
1990年9月	東京証券取引所及び大阪証券取引所市場第一部に上場。
1990年9月	大阪府高槻市に生産管理センターを設立。
1994年8月	大阪市に新本社・研究所を竣工。本社を移転。
2001年9月	中国に現地法人KEYENCE (CHINA) CO.,LTD.を設立。
2007年11月	大阪府高槻市にロジスティクスセンターを設立。
2009年7月	大阪市にクオリティ・ラボを設立。
2011年5月	ブラジルに現地法人KEYENCE BRASIL COMERCIO DE PRODUTOS ELETRONICOS LTDA.を設立。
2011年8月	インドに現地法人KEYENCE INDIA PVT.LTD.を設立。
2013年7月	インドネシアに現地法人PT.KEYENCE INDONESIAを設立。
2014年3月	ベトナムに現地法人KEYENCE VIETNAM CO.,LTD.を設立。
2016年7月	フィリピンに現地法人KEYENCE PHILIPPINES INC.を設立。

3【事業の内容】

当社の関係会社は、当社、連結子会社28社、非連結子会社1社及び関連会社1社（2019年3月20日現在）により構成され、その主な事業内容は、電子応用機器の製造及び販売であります。

事業内容と当社及び関係会社の当該事業に係る位置付けは、次のとおりであります。

(1) 電子応用機器の製造及び販売

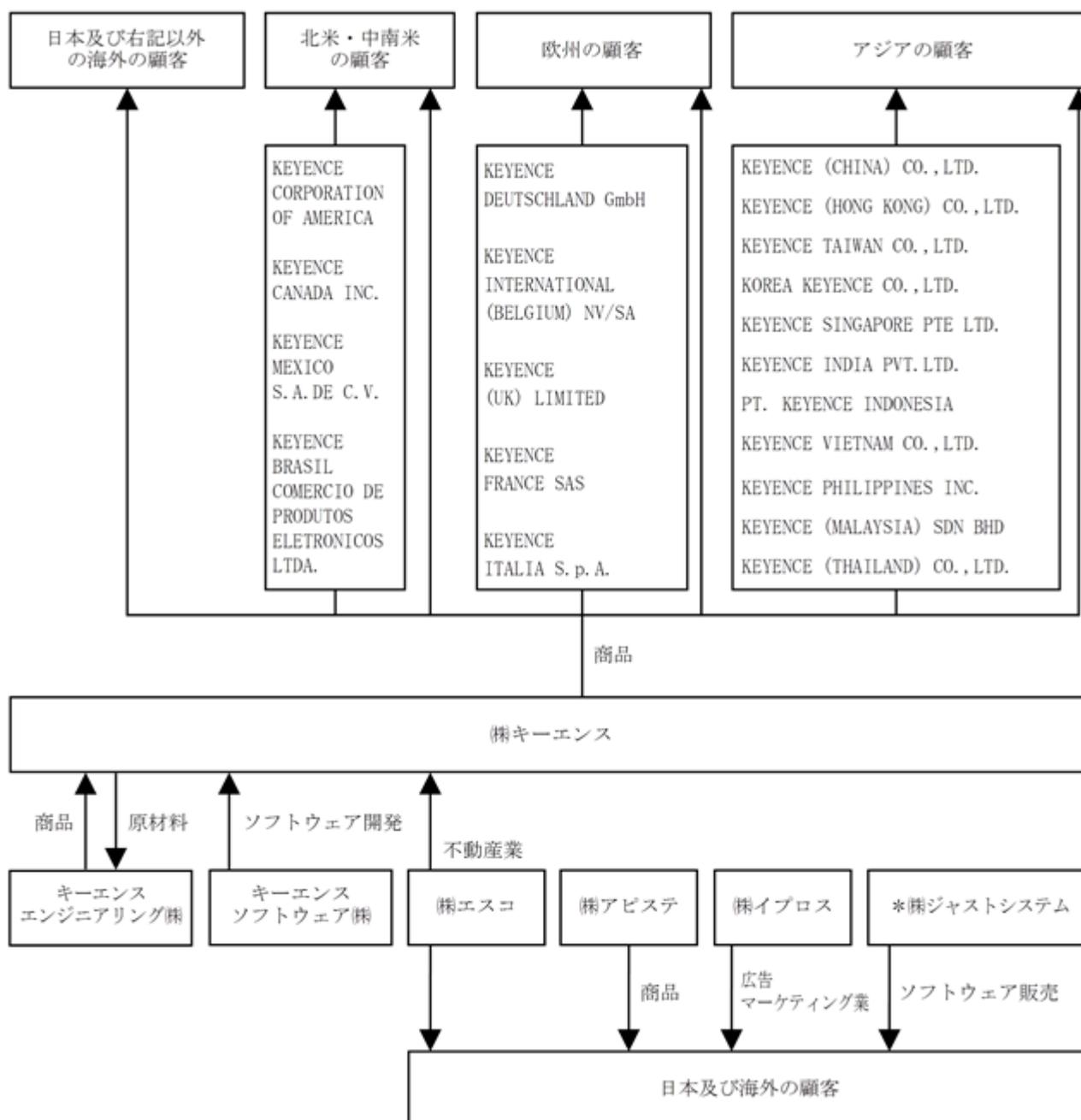
当社が商品の開発、製造及び販売を行っているほか、キーエンスソフトウェア㈱は当社商品のソフトウェア開発、キーエンスエンジニアリング㈱は当社商品の製造を行っております。さらに北米・中南米ではKEYENCE CORPORATION OF AMERICAほか3社、欧州ではKEYENCE DEUTSCHLAND GmbHほか4社、アジアではKEYENCE (CHINA) CO., LTD.ほか10社の子会社等を通じて販売を行っております。

(2) その他の事業

㈱エスコが不動産業を営んでおります。

㈱イプロスが広告・マーケティング業を営んでおります。

事業の系統図は次のとおりであります。



(注) 無印 連結子会社

* 持分法適用会社

4【関係会社の状況】

(1) 連結子会社

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
キーエンスエンジニアリング株式会社	大阪府高槻市	百万円 30	電子応用機器の製造	100	1 役員の兼任等 有 2 営業上の取引 当社商品の製造
KEYENCE CORPORATION OF AMERICA (注) 1、4	アメリカ	千USD 100	電子応用機器の販売	100	1 役員の兼任等 有 2 営業上の取引 当社商品の販売
KEYENCE DEUTSCHLAND GmbH	ドイツ	千EUR 306	電子応用機器の販売	100	1 役員の兼任等 有 2 営業上の取引 当社商品の販売
KEYENCE (UK) LIMITED	イギリス	千GBP 300	電子応用機器の販売	100	1 役員の兼任等 有 2 営業上の取引 当社商品の販売
KEYENCE SINGAPORE PTE LTD.	シンガポール	千SGD 600	電子応用機器の販売	100	1 役員の兼任等 有 2 営業上の取引 当社商品の販売
KEYENCE (MALAYSIA) SDN BHD	マレーシア	千MYR 1,100	電子応用機器の販売	100	1 役員の兼任等 有 2 営業上の取引 当社商品の販売
KEYENCE FRANCE SAS	フランス	千EUR 2,000	電子応用機器の販売	100	1 役員の兼任等 有 2 営業上の取引 当社商品の販売
KEYENCE (THAILAND) CO.,LTD.	タイ	百万THB 113	電子応用機器の販売	100	1 役員の兼任等 有 2 営業上の取引 当社商品の販売
KEYENCE TAIWAN CO.,LTD.	台湾	百万TWD 15	電子応用機器の販売	100	1 役員の兼任等 有 2 営業上の取引 当社商品の販売
KEYENCE (HONG KONG) CO.,LTD.	香港	千HKD 5,000	電子応用機器の販売	100	1 役員の兼任等 有 2 営業上の取引 当社商品の販売
KEYENCE (CHINA) CO.,LTD. (注) 4	中国	百万CNY 100	電子応用機器の販売	100	1 役員の兼任等 有 2 営業上の取引 当社商品の販売
KEYENCE ITALIA S.p.A. (注) 3	イタリア	千EUR 800	電子応用機器の販売	100 (10)	1 役員の兼任等 有 2 営業上の取引 当社商品の販売
KEYENCE CANADA INC.	カナダ	千CAD 600	電子応用機器の販売	100	1 役員の兼任等 有 2 営業上の取引 当社商品の販売
KEYENCE MEXICO S.A.DE C.V.	メキシコ	千MXN 6,050	電子応用機器の販売	100	1 役員の兼任等 有 2 営業上の取引 当社商品の販売
KEYENCE INTERNATIONAL (BELGIUM) NV/SA	ベルギー	千EUR 2,000	電子応用機器の販売	100	1 役員の兼任等 有 2 営業上の取引 当社商品の販売
KEYENCE BRASIL COMERCIO DE PRODUTOS ELETRONICOS LTDA.	ブラジル	千BRL 7,000	電子応用機器の販売	100	1 役員の兼任等 有 2 営業上の取引 当社商品の販売
KEYENCE INDIA PVT.LTD. (注) 3	インド	百万INR 49	電子応用機器の販売	100 (0.1)	1 役員の兼任等 有 2 営業上の取引 当社商品の販売
KOREA KEYENCE CO.,LTD.	韓国	百万KRW 1,000	電子応用機器の販売	100	1 役員の兼任等 有 2 営業上の取引 当社商品の販売

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
PT. KEYENCE INDONESIA (注)3	インドネシア	百万IDR 7,928	電子応用機器の販売	100 (1)	1 役員の兼任等 有 2 営業上の取引 当社商品の販売
KEYENCE VIETNAM CO.,LTD.	ベトナム	百万VND 18,972	電子応用機器の販売	100	1 役員の兼任等 有 2 営業上の取引 当社商品の販売
KEYENCE PHILIPPINES INC.	フィリピン	千USD 1,108	電子応用機器の販売	100	1 役員の兼任等 有 2 営業上の取引 当社商品の販売
株式会社アピステ	大阪府大阪市	百万円 100	電子応用機器の製造販売	100	役員の兼任等 有
株式会社エスコ	大阪府大阪市	百万円 70	不動産業	100	1 役員の兼任等 有 2 営業上の取引 当社グループ保有の不動産管理
株式会社イブロス	東京都港区	百万円 100	広告マーケティング業	100	役員の兼任等 有
キーエンスソフトウェア株式会社	大阪府大阪市	百万円 300	ソフトウェア開発	100	1 役員の兼任等 有 2 営業上の取引 当社グループのソフトウェア開発
その他3社					

- (注) 1 特定子会社であります。
2 上記子会社のうちには、有価証券届出書又は、有価証券報告書を提出している会社はありません。
3 議決権の所有割合欄の()内は内数で間接所有割合であります。
4 KEYENCE CORPORATION OF AMERICA及びKEYENCE (CHINA) CO.,LTD.については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	KEYENCE CORPORATION OF AMERICA	KEYENCE (CHINA) CO.,LTD.
売上高	86,938百万円	66,775百万円
経常利益	5,267百万円	5,654百万円
当期純利益	3,896百万円	4,228百万円
純資産額	34,241百万円	20,971百万円
総資産額	43,413百万円	31,582百万円

(2) 持分法適用関連会社

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
株式会社ジャストシステム (注)	徳島県徳島市	百万円 10,146	ソフトウェアの開発、 販売等	43.96	役員の兼任等 有

(注) 有価証券報告書の提出会社であります。

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2019年3月20日現在における従業員数（就業人員数）は、7,941人であります。

なお、当社グループは電子応用機器の製造・販売を中心に事業活動を展開する単一セグメントのため、セグメント別の記載を省略しております。

(2) 提出会社の状況

2019年3月20日現在

従業員数（人）	平均年令（才）	平均勤続年数（年）	平均年間給与（円）
2,388	35.8	12.1	21,106,666

（注）1 従業員数は就業人員数であります。

2 平均年間給与は、基準外賃金及び賞与を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

労使関係について特に記載すべき事項はありません。

第2【事業の状況】

1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

当社グループの経営方針といたしましては、企業効率性の追求と付加価値の創造を常に目指してまいりたいと考えております。この経営方針のもとに以下の課題に取り組んでまいり所存であります。なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 海外事業の拡大

海外事業は国内市場の規模に比し当社商品の浸透度は未だ小さく、大きな拡販余地があります。このような経営環境への対処方針としては、国内同様ユーザーへの直接販売方式を推し進めることが第一であり、具体策としては販売体制の強化と営業人員の育成であります。

(2) 人材力の更なる向上

当社グループの強みを更に向上させる方策の一つとして、人材力の更なる向上が重要であります。個々の社員が主体性を発揮して働く活力ある組織にしていくことが、一人ひとりの力と組織の力を同時に高めることになりま。具体的には、社内組織のフラット化、情報のオープン化、公平でクリーンな社内組織づくりなどを更に進めてまいります。

2【事業等のリスク】

当社グループは、開発・営業両部門が一体となった新商品開発・市場開拓、工場を持たないファブレス、特定の商品や顧客に依存しないリスク分散などによって、景気変動や特定の商品・企業動向に左右されにくい経営体制の構築に努めております。しかしながら、当社グループの商品は主として企業の研究開発投資や生産設備投資関連の商品であり、当社グループの業績はそれらの投資動向の影響を受ける可能性があります。また、当社グループは北米・中南米、欧州、アジアにおいても、主に現地法人を通じて商品の販売を行っており、そのため、海外経済動向や為替変動からも当社グループの業績は影響を受ける可能性があります。なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析は次のとおりであります。なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 重要な会計方針及び見積もり

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成しております。連結財務諸表の作成に際しましては、当連結会計年度末における資産・負債の報告数値及び当連結会計年度における収益・費用の金額に影響を与える重要な会計方針につきましては、「第5 経理の状況」の「1 連結財務諸表等 (1)連結財務諸表 注記事項 (連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)」に記載のとおりであります。

(2) 経営成績等の状況の概要

経営成績の状況

当連結会計年度の世界経済は、一部の地域で弱さがみられましたが、全体としては緩やかな回復基調で推移しました。米国では通商問題や政策の動向及び影響等が懸念されましたが、設備投資は緩やかに増加しました。アジア地域では一部の地域で輸出や生産の減少がみられました。欧州では生産に弱い動きがありましたが、消費や設備投資は緩やかに増加しました。国内においては輸出や生産の一部に弱さもみられましたが、緩やかに回復しました。

こうしたなか、当社グループといたしましては中長期的な成長を維持する観点からも、企画開発面での充実、営業面での強化を図ってまいりました。企画開発面では、マルチカラー同軸変位計やカメラ内蔵レーザ変位センサ等の新商品の開発を行い、営業面では、人材の充実や海外販売体制の強化を図ってまいりました。

以上の結果、当連結会計年度における売上高は587,095百万円（前年同期比11.4%増）、営業利益は317,868百万円（同8.5%増）、経常利益は319,860百万円（同7.0%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は226,147百万円（同7.4%増）となりました。

地域ごとの業績を示すと次のとおりであります。

イ 国内

日本では、生産の一部に弱さもみられたものの、設備投資は緩やかに増加しました。こうしたなか、新商品の投入や営業体制の充実に努め、売上高は275,117百万円（前年同期比11.7%増）となりました。

ロ 海外

海外では、一部で輸出や生産の減少がみられたものの、全体としては緩やかな回復基調が続きました。こうしたなか、人材の採用・育成を中心に営業体制の強化に努め、売上高は311,978百万円（前年同期比11.2%増）となりました。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ14,366百万円（5.1%）減少し、265,894百万円となりました。なお、当連結会計年度における各活動におけるキャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度における営業活動による資金の増加額は、209,380百万円となりました。これは、当連結会計年度の税金等調整前当期純利益を319,860百万円計上したことなどによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度における投資活動による資金の減少額は、205,350百万円となりました。これは、有価証券が150,006百万円増加したことなどによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度における財務活動による資金の減少額は、18,221百万円となりました。これは、配当金を18,189百万円支払ったことなどによるものであります。

(3) 生産、受注及び販売の実績

生産実績

当連結会計年度の生産実績は、596,874百万円となりました。生産実績は販売価格によっており、消費税等は含まれておりません。

受注実績

当社は即納体制を敷いているため、受注はほぼ売上高と均衡しており、受注残高に重要性はありません。

販売実績

当連結会計年度の販売実績は、587,095百万円となりました。販売実績には消費税等は含まれておりません。なお、販売実績が総販売実績の100分の10以上となる相手先はないため、主要な顧客別の売上状況は記載を省略しております。

(4) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

当連結会計年度の経営成績の分析

イ 売上高

売上高の分析については、「第2 事業の状況」の「3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析（2）経営成績等の状況の概要」に記載のとおりであります。

ロ 営業利益

営業利益の分析については、「第2 事業の状況」の「3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析（2）経営成績等の状況の概要」に記載のとおりであります。

ハ 営業外損益

当連結会計年度の営業外収益は2,743百万円、営業外費用は751百万円となりました。営業外収益の主なものは受取利息1,172百万円であります。

財政状態及びキャッシュ・フローの分析

イ 資産

当連結会計年度末の総資産は、前連結会計年度末に比べ196,135百万円増加し、1,682,357百万円となりました。これは、投資有価証券が124,387百万円増加したことなどによるものであります。

ロ 負債

当連結会計年度末の負債は、前連結会計年度末に比べ11,117百万円減少し、94,047百万円となりました。これは、未払法人税等が12,010百万円減少したことなどによるものであります。

ハ 純資産

当連結会計年度末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ207,252百万円増加し、1,588,309百万円となりました。これは、利益剰余金が207,957百万円増加したことなどによるものであります。

ニ キャッシュ・フロー

キャッシュ・フローの分析については、「第2 事業の状況」の「3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (2) 経営成績等の状況の概要」に記載のとおりであります。

(5) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

資金需要の主な内容及び財務政策

当社グループの資金需要の主な内容は営業活動に必要な資金及び企画開発面における研究開発資金であり、これらの調達方法につきましては、営業活動により獲得した資金を充当することとしております。

なお、重要な設備投資の計画につきましては、「第3 設備の状況」の「3 設備の新設、除却等の計画」に記載のとおりであります。

(6) 経営成績に重要な影響を与える要因について

「第2 事業の状況」の「2 事業等のリスク」に記載のとおりであります。

4 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

5 【研究開発活動】

当社グループの研究開発の大部分を、当社が行っております。

当連結会計年度における主な成果としては、超高輝度マルチカラー光源を採用し、広い測定範囲と高精度な測定を実現したマルチカラーレーザ同軸変位計を開発。対象物の材質に左右されず、透明、鏡面、金属粗面、セラミックや樹脂、接着剤などの液体においても高精度で正確な測定を実現。これまで諦めていた狭い場所でのセンサヘッドの並列設置やロボットへの搭載が可能になりました。

さらに、新方式であるドライブスキャンシステムを搭載したカメラ内蔵レーザ変位センサを開発するなど、製造現場の生産性や品質向上に貢献する商品の開発にも注力しました。

なお、当連結会計年度における当社グループの研究開発費は15,928百万円となりました。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当社グループの当連結会計年度における設備投資は、新商品用の金型等の工具、器具及び備品を主なものとして総額7,361百万円となりました。

2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、以下のとおりであります。

なお、当社グループは電子応用機器の製造・販売を中心に事業活動を展開する単一セグメントのため、セグメント別の記載を省略しております。

(1) 提出会社

2019年3月20日現在

事業所 (所在地)	設備の内容	帳簿価額(百万円)				従業員数 (人)
		建物 及び構築物	工具、器具 及び備品	その他	合計	
本社・研究所 (大阪府大阪市)	製造・研究開発 貿易・管理業務設備	2,468	3,543	406	6,418	692
物流センター (大阪府高槻市)	物流業務設備	1,178	530	4	1,713	7
品質評価施設 (大阪府大阪市)	研究開発	472	0	-	472	35
高槻事業所 (大阪府高槻市)	製造・研究開発 管理業務設備	300	66	-	366	65

(注) 帳簿価額「その他」は、機械装置及び運搬具並びに建設仮勘定であります。なお、上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 国内子会社

2019年3月20日現在

会社名	設備の内容	帳簿価額(百万円)				従業員数 (人)
		建物 及び構築物	工具、器具 及び備品	土地 (面積千㎡)	合計	
(株)エスコ	当社グループの 事業用土地他	633	0	7,022 (38)	7,655	-

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3【設備の新設、除却等の計画】

記載すべき事項はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	300,000,000
計	300,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2019年3月20日)	提出日現在 発行数(株) (2019年6月17日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	121,603,842	121,603,842	東京証券取引所市場 第一部	単元株式数 100株
計	121,603,842	121,603,842	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2017年1月21日 (注)	60,801,921	121,603,842	-	30,637	-	30,526

(注) 1株を2株に株式分割したことによるものであります。

(5)【所有者別状況】

2019年3月20日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数 100株)								単元未満 株式の 状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	102	31	429	1,162	13	8,855	10,592	-
所有株式数 (単元)	-	305,200	3,402	188,507	588,170	6	129,439	1,214,724	131,442
所有株式数の割合 (%)	-	25.13	0.28	15.52	48.42	0.00	10.66	100.00	-

(注) 1 自己株式339,716株は、「個人その他」に3,397単元、「単元未満株式の状況」に16株含まれております。

2 上記「その他の法人」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が100株含まれております。

(6)【大株主の状況】

2019年3月20日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社ティ・ティ	大阪府豊中市新千里南町3丁目23-2	18,285	15.07
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	10,250	8.45
滝崎 武光	大阪府豊中市	9,377	7.73
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	6,061	4.99
JP MORGAN CHASE BANK 380055 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	270 PARK AVENUE, NEW YORK, NY 10017, UNITED STATES OF AMERICA (東京都港区港南2丁目15-1)	3,877	3.19
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT (常任代理人 香港上海銀行東京支店カスタディ業務部)	ONE LINCOLN STREET, BOSTON MA USA 02111 (東京都中央区日本橋3丁目11-1)	3,416	2.81
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	東京都中央区晴海1丁目8-11	1,926	1.58
第一生命保険株式会社	東京都千代田区有楽町1丁目13-1	1,796	1.48
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140044 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	240 GREENWICH STREET, NEW YORK, NY 10286, U.S.A. (東京都港区港南2丁目15-1)	1,623	1.33
STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	1776 HERITAGE DRIVE, NORTH QUINCY, MA 02171, U.S.A. (東京都港区港南2丁目15-1)	1,588	1.31
計	-	58,204	47.99

(注)1 2018年10月5日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書の変更報告書において、銀行等保有株式取得機構が2018年9月28日現在で以下の株式を保有している旨が記載されているものの、当社として議決権行使基準日における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。当該変更報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
銀行等保有株式取得機構	東京都中央区新川二丁目28番1号	5,065	4.17

(注)2 2019年4月5日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書において、キャピタル・リサーチ・アンド・マネージメント・カンパニー及びその共同保有者であるキャピタル・ガーディアン・トラスト・カンパニー、キャピタル・インターナショナル株式会社が2019年3月29日現在でそれぞれ以下の株式を保有している旨が記載されているものの、当社として議決権行使基準日における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。当該大量保有報告書の内容は次のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
キャピタル・リサーチ・アンド・マネージメント・カンパニー	333 South Hope Street, Los Angeles, CA 90071 U.S.A.	5,002	4.11
キャピタル・ガーディアン・トラスト・カンパニー	333 South Hope Street, Los Angeles, California, U.S.A.	735	0.60
キャピタル・インターナショナル株式会社	東京都千代田区丸の内二丁目1番1号 明治安田生命ビル14階	390	0.32

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年3月20日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 339,700	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 121,132,700	1,211,327	-
単元未満株式	普通株式 131,442	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	121,603,842	-	-
総株主の議決権	-	1,211,327	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が100株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数1個が含まれております。

【自己株式等】

2019年3月20日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社キーエンス	大阪市東淀川区東中島 1丁目3-14	339,700	-	339,700	0.28
計	-	339,700	-	339,700	0.28

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	513	31,814,630
当期間における取得自己株式(注)	146	10,086,240

(注) 「当期間における取得自己株式」欄には、2019年5月21日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りは含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他(注)1 (単元未満株式の売渡請求による売渡)	-	-	-	-
保有自己株式数(注)2	339,716	-	339,862	-

(注)1 当期間における「単元未満株式の売渡請求による売渡」欄には、2019年5月21日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の売渡による株式数は含まれておりません。

2 当期間における「保有自己株式数」欄には、2019年5月21日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び売渡による株式数は含まれておりません。

3 【配当政策】

当社は、効率的な事業運営による資本利益率の向上を図りつつ、高付加価値の拡大を図っていくことを経営の目標としております。

利益配分につきましては、株主各位への配当の充実を図りながら将来の事業展開と経営体質強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当を継続していくことを基本方針としております。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としており、これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

上記方針に基づき、中間配当(1株当たり100円)と合わせ、当期の1株当たり配当金は年間200円といたしました。

内部留保資金につきましては、今後予想される経営環境の変化に対応すべく企画開発力の強化、海外事業の充実、事業領域の拡大等を図るために有効投資してまいりたいと考えております。

当社定款には、毎年9月20日を基準日として会社法第454条第5項に規定する中間配当をすることができる旨を定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)
2018年11月1日 取締役会決議	12,126	100
2019年6月14日 定時株主総会決議	12,126	100

4【株価の推移】

(1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第44期	第45期	第46期	第47期	第48期	第49期	第50期
決算年月	2015年3月	2015年6月	2016年3月	2016年6月	2017年3月	2018年3月	2019年3月
最高(円)	69,480	68,940	70,100	70,880	84,630 45,650	72,400	71,830
最低(円)	36,095	60,860	50,500	57,580	68,780 40,500	42,810	50,780

(注) 1 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

2 最近5年間の事業年度別最高・最低株価は、第44期、第49期、第50期については、4月1日から3月31日まで、第45期、第47期については決算期変更により4月1日から6月30日まで、第46期、第48期については決算期変更により7月1日から3月31日までの間の最高・最低を表示しております。

3 印は株式分割(2017年1月21日付で1株を2株に分割)による権利落後の最高・最低株価であります。

4 2015年6月12日開催の第44回定時株主総会決議において、第45期の決算期を3月20日から6月20日に変更し、第46期の決算期を6月20日から3月20日に変更しております。また、2016年6月10日開催の第46回定時株主総会決議において、第47期の決算期を3月20日から6月20日に変更し、第48期の決算期を6月20日から3月20日に変更しております。

(2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	2018年10月	2018年11月	2018年12月	2019年1月	2019年2月	2019年3月
最高(円)	68,100	63,330	63,190	56,680	68,080	71,830
最低(円)	50,780	53,690	51,390	51,220	56,500	65,240

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであり、2018年10月1日から2019年3月31日までの暦月によっております。

5【役員 の 状 況】

男性 12名 女性 名 (役員のうち女性の比率 %)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
取締役 名誉会長		滝崎 武光	1945年 6月10日	1972年 3月 1974年 5月 2000年12月 2015年 3月	リード電機創業 リード電機株式会社 (現株式会社キーエンス)設立 代表取締役社長 代表取締役会長 取締役名誉会長(現)	(注)3	9,377,236
代表取締役 社長		山本 晃則	1965年 2月28日	1987年 4月 2004年 3月 2009年 6月 2010年12月	当社入社 FIGNA事業部長 取締役事業推進部長兼MECT事業部長 代表取締役社長(現)	(注)3	1,376
取締役	経営情報室長 兼販促推進部 長兼事業支援 部長	木村 圭一	1968年 3月16日	1991年 4月 2011年 9月 2014年 6月 2017年 3月	当社入社 マイクロスコープ事業部長 取締役経営情報室長兼事業推進部長兼事業支援 部長 取締役経営情報室長兼販促推進部長兼事業支援 部長(現)	(注)3	1,000
取締役	開発推進部長	山口 昭司	1971年 4月14日	1994年 4月 2016年 8月 2017年 6月	当社入社 開発推進部長 取締役開発推進部長(現)	(注)3	-
取締役	メトロロジ 事業部長	三木 雅之	1975年 4月3日	1998年 4月 2007年 9月 2009年 6月 2014年 6月 2018年 6月 2018年 9月	当社入社 MECT事業部商品開発グループ長 株式会社ジャストシステム取締役(現) 当社取締役 当社取締役 取締役メトロロジ事業部長(現)	(注)3	-
取締役	センサ事業部 長兼事業推進 部長	中田 有	1974年 7月26日	1997年 4月 2018年 6月 2018年12月 2019年 6月	当社入社 センサ事業部長 センサ事業部長兼事業推進部長 取締役センサ事業部長兼事業推進部長(現)	(注)3	-
取締役	顧問	寒澤 晃	1957年 3月6日	1981年 3月 1998年 1月 2009年 6月 2016年 8月	当社入社 商品強化部長 取締役開発推進部長 取締役顧問(現)	(注)3	-
取締役		田辺 陽一	1969年 11月25日	1995年 4月 2002年 1月 2006年 8月 2016年 6月	弁護士登録 色川法律事務所パートナー(現) 東洋炭素株式会社社外監査役 当社取締役(現)	(注)3	-
取締役		谷口 誓一	1964年 8月13日	1996年 4月 2010年 5月 2017年 7月 2019年 6月	公認会計士登録 あずさ監査法人(現有限責任あずさ監査法人) パートナー みのり監査法人理事/パートナー(現) 当社取締役(現)	(注)3	-
監査役 (常勤)		小村 貢一郎	1964年 11月19日	1988年 4月 2012年 4月 2016年 4月 2019年 6月	株式会社住友銀行(現株式会社三井住友銀行)入行 株式会社三井住友銀行岸和田法人営業部部长 株式会社三井住友銀行法人審査第二部部长 当社監査役(現)	(注)4	-
監査役		小河 耕一	1951年 12月2日	1997年 5月 2002年 4月 2007年 9月 2012年 6月 2013年 6月	株式会社富士銀行六本木支店長 株式会社みずほ銀行横浜駅前支店長 みずほスタッフ株式会社常務取締役 当社監査役(現) JKホールディングス株式会社社外監査役(現) 株式会社システナ社外取締役(現)	(注)5	-
監査役		武田 英彦	1959年 12月7日	1986年 9月 1989年 2月 1995年 1月 2012年 5月 2016年12月	太田昭和監査法人(現EY新日本有限責任監査法 人)入所 公認会計士登録 公認会計士武田英彦事務所開設(現) 株式会社エスポア社外監査役(現) 当社監査役(現)	(注)6	-
計							9,379,612

(注)1 取締役 田辺陽一、谷口誓一は、社外取締役であります。

2 監査役 小村貢一郎、小河耕一、武田英彦は、社外監査役であります。

- 3 2019年6月14日開催の定時株主総会の終結の時から1年間
- 4 2019年6月14日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
- 5 2016年6月10日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
- 6 前任者の辞任に伴う就任であるため、当社の定款の定めにより、前任者の任期満了の時までであります。
前任者の任期は2016年6月10日開催の定時株主総会の終結の時から4年間です。

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

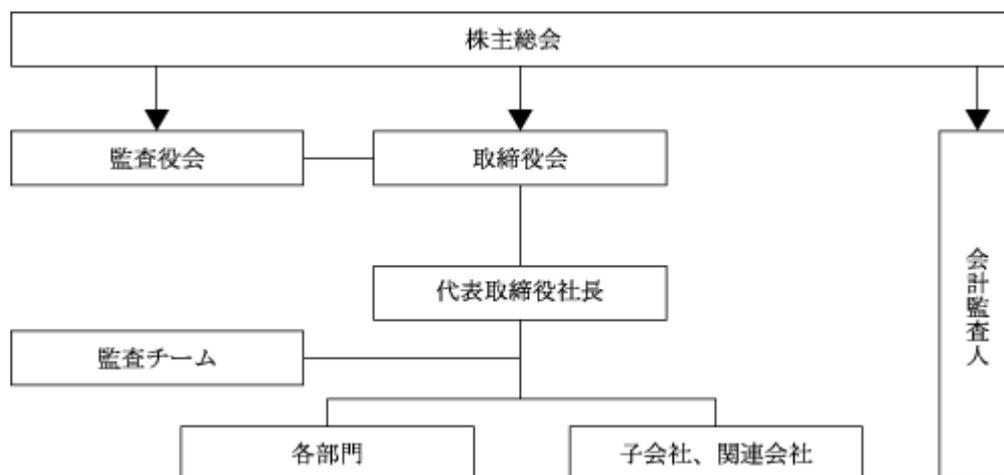
(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

企業統治体制

イ 企業統治体制の概要

コーポレート・ガバナンスの体制面につきましては、当社では監査役制度を採用しており、監査役3名全員が社外監査役であります。監査役に専従スタッフは配置しておりませんが、監査チームが連携する体制をしいており、また監査役は社内の各種重要会議に出席しております。一方、取締役は社外取締役2名を含め9名と少人数で迅速かつ密な情報交換を行うことで監督と執行を両立させております。内部統制の仕組みにつきましては、専門部署による実地監査のほか、情報がすばやく伝達され牽制機能が発揮される仕組みを構築しております。

当社の経営上の意思決定、執行及び監督に係る経営管理組織とコーポレートガバナンスの体制の概要は以下の通りです。



ロ 当該体制を採用する理由

コーポレート・ガバナンスにつきましては、不公正・非効率な経営は企業価値を損なうだけでなく、会社の永続にとって重大な妨げになるとの認識のもと、会社構成員、とりわけ経営者の志と自己規律に磨きをかけ、徹底した対話によって経営理念、行動指針さらには戦略の社内共有化で実効を上げることを基本としております。取締役の人数を必要最小限に絞ったうえで、社内の情報の流れをよくし、論理優先で十分に議論を尽くして良い悪いを明確にしていく企業風土を維持することで、不正・不祥事の防止はもとより、絶えざる経営の効率化と意思決定・業務執行の迅速化によって競争力の強化と企業価値の向上をめざしております。

その他の提出会社の企業統治に関する事項

当社では、業務の適正を確保するための体制として、取締役会において以下の内容を決議しております。

イ 当社並びに当社子会社の取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

全ての役職員が共有する価値観と行動規範を明確にした指針を定め、定期的な教育を実施し、その遵守徹底やコンプライアンス意識の周知徹底を図り、また取締役会で見直しを行いその実効性を確保する。

ロ 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役会議事録、企画・報告書等取締役の職務執行に関わる情報については、社内規則に基づき、保存・管理する。各取締役及び各監査役の請求があるときは、これを閲覧に供する。

ハ 当社並びに当社子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

コンプライアンス・環境・災害・品質管理・輸出管理などに関わるリスクについては、それぞれの対応部署で必要に応じ規則・ガイドラインを制定し、管理責任者を特定するとともに、研修の実施、マニュアルの作成・配布を行う。新たに生じたリスクへの対応が必要な場合には、それぞれの部署責任者から取締役会に報告し、リスク管理体制を改善する。

ニ 当社並びに当社子会社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

全社に影響を及ぼす重要な事項等については、多面的な検討を経て適正に決定するため、定例的な役員連絡会等を開催するほか、職務権限と意思決定の手順を明確化する。また各事業部の業績推進については、定例報告会にて検討、管理を行う。

- ホ 当社子会社の取締役等の職務の執行に係る事項の当社への報告に関する体制
経営管理面の重要事項については、事前に協議・検討を行う運用を実施するとともに、業績推進面における事項についても定期的に報告を受けるものとする。
- ヘ 当社並びに当社子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
内部監査部署の監査を適宜実施する。災害時の緊急連絡窓口部署は、国内会社及び海外会社それぞれを所管する部署とし、適宜・適切な助言・支援を行うものとする。
- ト 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項
求められた場合は監査役の同意を得て監査役を補助すべき使用人を選定する。
- チ 上記トに掲げる使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項
監査役を補助すべき使用人は、他部署の使用人を兼務せず、もっぱら監査役の指揮命令に従わなければならない。
- リ 上記チに掲げる使用人の取締役からの独立性に関する事項
監査役を補助すべき使用人の人事異動、人事評価、懲戒に関しては、監査役会の事前の同意を得るものとする。
- ヌ 当社並びに当社子会社の取締役、監査役、使用人及びこれらの者から報告を受けた者が当社監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に関する体制
役員連絡会、事業部連絡会、組織監査連絡会等の定例会議への監査役出席を確保するとともに、代表取締役及び取締役との定例ミーティングを実施する。監査役へ報告する事項として以下とする。
- ・ 役員会で審議・報告された事項
 - ・ 当社に著しい損害を及ぼすおそれのある事項
 - ・ 内部監査部署が実施した内部監査の結果
 - ・ 役職員の重要な違法行為
- ル 上記ヌの報告をした者が、当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制
当社並びに当社子会社の監査役へ報告を行った役職員に対し、当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを行うことを禁止し、その旨を周知徹底する。
- ロ 監査役を補助する費用の前払又は償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項
監査役がその職務の執行について、当社に対し、会社法第388条に基づく費用の前払い等の請求をしたときは、担当部署において審議の上、当該請求に係る費用または債務が当該監査役の職務の執行に必要でないと認められる場合を除き、速やかに当該費用または債務を処理する。

内部監査及び監査役監査の組織、人員及び手続き

内部監査として、専任の監査チームを設置しております。国内外の各拠点における業務・運営の適正性、効率性を中心に内部監査を実施しており、監査結果その他の情報は定期的に、また必要に応じて代表取締役社長に報告されております。

監査役監査につきましては、監査役3名（常勤監査役1名）が実施しております。監査役は取締役会をはじめ社内の各種重要会議に出席しております。また、内部監査を実施している監査チームと協力し、各拠点の実地監査も行っております。会計監査人とは半期毎の会計監査結果の報告会など定例的な打合せを持っており、会社の内部体制、取締役の職務執行などに対して十分な監視機能を有しております。

社外役員の状況

当社では、当社との間に特別な利害関係がなく、一般株主と利益相反の生じるおそれがないことを社外役員の独立性の基準としております。また、社外役員の選任につきましては、会社法上の要件に加え、証券取引所の独立役員の規定を参考にしております。

社外取締役は2名であります。田辺陽一氏は、色川法律事務所にも所属する弁護士であります。同事務所と当社との間には取引関係はありません。谷口誓一氏は、みのり監査法人の理事/パートナーを務める公認会計士であります。当社の監査に関与した経験はなく、同監査法人と当社との間には取引関係はありません。なお、各社外取締役と当社との間には特別な利害関係はありません。

社外監査役は3名であります。小村貢一郎氏が過去所属しておりました株式会社三井住友銀行からの借入はありません。小河耕一氏が過去所属しておりました株式会社みずほ銀行からの借入はありません。武田英彦氏は、公認会計士武田英彦事務所に所属する公認会計士であります。同事務所と当社との間には取引関係はありません。なお、各社外監査役と当社との間には特別な利害関係はありません。

当社は、会社法第427条第1項に基づき、社外取締役及び社外監査役との間において、会社法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任限度額は、法令が定める額としております。

業務を執行した公認会計士の氏名、所属する監査法人名等

会計監査につきましては、有限責任監査法人トーマツを監査人に選任し、会社法及び金融商品取引法に基づく会計監査に係る監査契約を締結しております。業務を執行した公認会計士の氏名は以下のとおりであります。

指定有限責任社員 業務執行社員 松尾 雅芳

指定有限責任社員 業務執行社員 三浦 宏和

監査業務に従事した補助者は、公認会計士4名、その他6名であります。

役員の報酬等

当社における役員の報酬等の総額

取締役（社外取締役を除く）297百万円（対象人員8名）

社外役員 35百万円（対象人員5名）

当社における役員ごとの連結報酬等の総額

代表取締役社長 山本 晃則 156百万円（提出会社の役員としての報酬）

（注）連結報酬等の総額が1億円以上である者に限定して記載しております。

役員の報酬等の額の決定に関する方針につきましては、役員報酬内規に基づき、株主総会の決議による報酬総額の限度内において決定しております。

取締役の報酬については、経営責任を明確にするとともに業績向上へのインセンティブを高めるため、連結営業利益に連動した変動報酬型としております。なお、上記の取締役の報酬等の総額は、全て基本報酬であり、使用人兼務取締役の使用人分給与（賞与含む）は含まれておりません。

監査役の報酬については、監査の中立性を確保するため、業績には連動せず監査役会の協議により決定しております。

取締役の定数

当社の取締役は10名以内とする旨定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

剰余金の配当等の決定機関

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年9月20日を基準日として、中間配当を行うことができる旨定款に定めております。

株式の保有状況

イ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 9銘柄

貸借対照表計上額の合計額 5,401百万円

ロ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
日本電産(株)	264,264	4,337	円滑な取引関係の維持のため
(株)ノエビアホールディングス	118,000	842	円滑な取引関係の維持のため
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	747,010	530	円滑な取引関係の維持のため
(株)りそなホールディングス	255,765	148	円滑な取引関係の維持のため
(株)みずほフィナンシャルグループ	343,670	66	円滑な取引関係の維持のため
第一生命ホールディングス(株)	7,000	14	円滑な取引関係の維持のため

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
日本電産(株)	264,264	3,546	円滑な取引関係の維持のため
(株)ノエビアホールディングス	118,000	664	円滑な取引関係の維持のため
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	747,010	428	円滑な取引関係の維持のため
(株)りそなホールディングス	255,765	127	円滑な取引関係の維持のため
(株)みずほフィナンシャルグループ	343,670	60	円滑な取引関係の維持のため
第一生命ホールディングス(株)	7,000	11	円滑な取引関係の維持のため

ハ 保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	28	-	29	-
連結子会社	-	-	-	-
計	28	-	29	-

【その他重要な報酬の内容】

前連結会計年度

当社の連結子会社8社の、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属している監査人に対して支払うべき監査証明業務に基づく報酬額は9百万円、税務業務などの非監査証明業務に基づく報酬額は13百万円です。

当連結会計年度

当社の連結子会社9社の、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属している監査人に対して支払うべき監査証明業務に基づく報酬額は6百万円、税務業務などの非監査証明業務に基づく報酬額は37百万円です。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度

該当事項はありません。

当連結会計年度

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

監査公認会計士等と協議した報酬額について、監査役会の同意を得て決定しております。

第5【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2018年3月21日から2019年3月20日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2018年3月21日から2019年3月20日まで)の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みとして、公益財団法人財務会計基準機構に加入し、会計基準等の内容を適切に把握できるよう適宜必要な情報を入手しております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月20日)	当連結会計年度 (2019年3月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	437,675	468,206
受取手形及び売掛金	160,276	169,342
有価証券	370,055	394,999
たな卸資産	2 34,847	2 38,349
繰延税金資産	14,395	12,628
その他	6,543	7,834
貸倒引当金	366	347
流動資産合計	1,023,426	1,091,011
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	21,363	21,971
減価償却累計額	14,276	14,792
建物及び構築物(純額)	7,086	7,179
工具、器具及び備品	30,744	35,785
減価償却累計額	25,015	27,811
工具、器具及び備品(純額)	5,728	7,973
土地	7,021	7,022
その他	2,964	4,206
減価償却累計額	1,375	1,938
その他(純額)	1,589	2,267
有形固定資産合計	21,426	24,443
無形固定資産		
その他	5,204	5,888
無形固定資産合計	5,204	5,888
投資その他の資産		
投資有価証券	1 432,981	1 557,368
繰延税金資産	456	469
その他	2,790	3,237
貸倒引当金	61	61
投資その他の資産合計	436,165	561,013
固定資産合計	462,796	591,345
資産合計	1,486,222	1,682,357

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月20日)	当連結会計年度 (2019年3月20日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,645	6,309
未払法人税等	58,799	46,789
賞与引当金	10,131	10,165
その他	17,982	22,361
流動負債合計	97,558	85,626
固定負債		
その他	7,606	8,421
固定負債合計	7,606	8,421
負債合計	105,164	94,047
純資産の部		
株主資本		
資本金	30,637	30,637
資本剰余金	30,537	30,537
利益剰余金	1,316,311	1,524,268
自己株式	3,658	3,689
株主資本合計	1,373,828	1,581,753
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,648	2,924
為替換算調整勘定	3,563	3,620
退職給付に係る調整累計額	17	10
その他の包括利益累計額合計	7,228	6,555
純資産合計	1,381,057	1,588,309
負債純資産合計	1,486,222	1,682,357

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年3月21日 至 2018年3月20日)	当連結会計年度 (自 2018年3月21日 至 2019年3月20日)
売上高	526,847	587,095
売上原価	94,174	103,623
売上総利益	432,672	483,472
販売費及び一般管理費	1, 2 139,781	1, 2 165,604
営業利益	292,890	317,868
営業外収益		
受取利息	924	1,172
持分法による投資利益	2,071	548
租税公課還付金	2,443	-
雑収入	786	1,022
営業外収益合計	6,225	2,743
営業外費用		
為替差損	7	567
雑損失	248	184
営業外費用合計	256	751
経常利益	298,860	319,860
税金等調整前当期純利益	298,860	319,860
法人税、住民税及び事業税	93,427	91,228
法人税等調整額	5,162	2,484
法人税等合計	88,264	93,713
当期純利益	210,595	226,147
親会社株主に帰属する当期純利益	210,595	226,147

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年3月21日 至 2018年3月20日)	当連結会計年度 (自 2018年3月21日 至 2019年3月20日)
当期純利益	210,595	226,147
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	967	719
為替換算調整勘定	148	35
持分法適用会社に対する持分相当額	2	10
その他の包括利益合計	1,112	673
包括利益	211,708	225,473
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	211,708	225,473

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 2017年3月21日 至 2018年3月20日）

（単位：百万円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	30,637	30,533	1,120,874	3,608	1,178,436
当期変動額					
剰余金の配当			15,158		15,158
親会社株主に帰属する 当期純利益			210,595		210,595
自己株式の取得				50	50
自己株式の処分		4		1	5
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	4	195,436	49	195,391
当期末残高	30,637	30,537	1,316,311	3,658	1,373,828

	その他の包括利益累計額				純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	2,679	3,422	14	6,115	1,184,552
当期変動額					
剰余金の配当					15,158
親会社株主に帰属する 当期純利益					210,595
自己株式の取得					50
自己株式の処分					5
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	968	141	2	1,112	1,112
当期変動額合計	968	141	2	1,112	196,504
当期末残高	3,648	3,563	17	7,228	1,381,057

当連結会計年度（自 2018年3月21日 至 2019年3月20日）

（単位：百万円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	30,637	30,537	1,316,311	3,658	1,373,828
当期変動額					
剰余金の配当			18,189		18,189
親会社株主に帰属する 当期純利益			226,147		226,147
自己株式の取得				31	31
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	207,957	31	207,925
当期末残高	30,637	30,537	1,524,268	3,689	1,581,753

	その他の包括利益累計額				純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	3,648	3,563	17	7,228	1,381,057
当期変動額					
剰余金の配当					18,189
親会社株主に帰属する 当期純利益					226,147
自己株式の取得					31
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	723	56	6	673	673
当期変動額合計	723	56	6	673	207,252
当期末残高	2,924	3,620	10	6,555	1,588,309

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年3月21日 至 2018年3月20日)	当連結会計年度 (自 2018年3月21日 至 2019年3月20日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	298,860	319,860
減価償却費	4,577	6,288
受取利息及び受取配当金	988	1,245
為替差損益(は益)	20	19
持分法による投資損益(は益)	2,071	548
売上債権の増減額(は増加)	31,525	9,569
たな卸資産の増減額(は増加)	10,525	3,482
仕入債務の増減額(は減少)	3,345	4,355
賞与引当金の増減額(は減少)	1,746	33
その他	6	4,013
小計	263,447	310,975
利息及び配当金の受取額	1,558	1,428
法人税等の支払額	62,071	103,024
営業活動によるキャッシュ・フロー	202,934	209,380
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額(は増加)	115,007	45,644
有価証券の増減額(は増加)	155,502	150,006
有形固定資産の取得による支出	6,770	7,361
その他	2,928	2,337
投資活動によるキャッシュ・フロー	280,208	205,350
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の増減額(は増加)	45	31
配当金の支払額	15,158	18,189
財務活動によるキャッシュ・フロー	15,203	18,221
現金及び現金同等物に係る換算差額	123	174
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	92,354	14,366
現金及び現金同等物の期首残高	372,615	280,260
現金及び現金同等物の期末残高	280,260	265,894

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 28社

主要な子会社名は、「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載のとおりであります。

2 持分法の適用に関する事項

すべての関連会社1社(株式会社ジャストシステム)及びすべての非連結子会社1社に持分法を適用しております。非連結子会社につきましては、連結財務諸表に与える影響の重要性が乏しいことから、連結の範囲には含めておりません。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

子会社のうちKEYENCE (CHINA) CO.,LTD.ほか在外子会社5社の決算日は12月末日、在外子会社1社の決算日は3月末日であります。連結財務諸表の作成に当たっては、2月末日で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。これら7社を除く在外子会社15社及び国内子会社1社の決算日は2月末日であります。これら16社について、連結財務諸表の作成に当たっては、同決算日現在の財務諸表を使用しております。

ただし、これらの仮決算日と連結決算日との間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4 会計方針に関する事項

(イ)重要な資産の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、取得原価は移動平均法により算定)を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

たな卸資産

当社及び国内子会社は主として総平均法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)、在外子会社は主として総平均法による低価法を採用しております。

(ロ)重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産

当社及び国内子会社は定率法を採用しております。ただし、2007年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。在外子会社は主として定額法を採用しております。

無形固定資産

主として定額法を採用しております。

(ハ)重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、当社及び国内子会社は一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。また、在外子会社は主として相手先の財政状態を個別に判定して回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員に対する賞与支給に備えるため、賞与支給予想額のうち当連結会計年度負担額を計上しております。

(二) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。

なお、為替変動リスクのヘッジについて振当処理の要件を充たしている場合には振当処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ会計を適用したヘッジ手段とヘッジ対象は以下のとおりであります。

ヘッジ手段・・・為替予約

ヘッジ対象・・・外貨建定期預金

ヘッジ方針

内規に基づき、為替変動リスクをヘッジしております。

ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ対象の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計を比較し、その変動額の比率によって有効性を評価しております。

ただし、振当処理によっている為替予約については、有効性の評価を省略しております。

(ホ) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金及び預入れ期間が3ヵ月以内の預金としております。

(ヘ) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式を採用しております。

(連結貸借対照表関係)

1 非連結子会社及び関連会社に対するものは次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年3月20日)	当連結会計年度 (2019年3月20日)
投資有価証券	16,445百万円	16,834百万円

2 たな卸資産の内訳

	前連結会計年度 (2018年3月20日)	当連結会計年度 (2019年3月20日)
商品及び製品	17,637百万円	22,226百万円
仕掛品	6,379	5,703
原材料	10,829	10,419

(連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年3月21日 至 2018年3月20日)	当連結会計年度 (自 2018年3月21日 至 2019年3月20日)
役員報酬及び従業員給料手当賞与	64,250百万円	74,967百万円
賞与引当金繰入額	8,800	8,928
研究開発費	13,208	15,928

2 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年3月21日 至 2018年3月20日)	当連結会計年度 (自 2018年3月21日 至 2019年3月20日)
研究開発費の総額	13,208百万円	15,928百万円

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2017年3月21日 至 2018年3月20日)	当連結会計年度 (自 2018年3月21日 至 2019年3月20日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	1,392百万円	1,036百万円
組替調整額	- 百万円	- 百万円
税効果調整前	1,392百万円	1,036百万円
税効果額	424百万円	316百万円
その他有価証券評価差額金	967百万円	719百万円
為替換算調整勘定		
当期発生額	148百万円	35百万円
持分法適用会社に対する持分相当額		
当期発生額	2百万円	10百万円
その他の包括利益合計	1,112百万円	673百万円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2017年3月21日 至 2018年3月20日)

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	121,603,842	-	-	121,603,842
合計	121,603,842	-	-	121,603,842
自己株式				
普通株式(注)	338,375	926	98	339,203
合計	338,375	926	98	339,203

(注) 普通株式の自己株式数の増加926株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。普通株式の自己株式数の減少98株は、単元未満株式の買増請求による減少であります。

2 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2017年6月9日 定時株主総会	普通株式	9,094	75	2017年3月20日	2017年6月12日
2017年10月30日 取締役会	普通株式	6,063	50	2017年9月20日	2017年11月24日

(注) 2017年1月21日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行ったため、上記の1株当たり配当額は、株式分割後の金額となります。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2018年6月13日 定時株主総会	普通株式	6,063	利益剰余金	50	2018年3月20日	2018年6月14日

当連結会計年度(自 2018年3月21日 至 2019年3月20日)

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	121,603,842	-	-	121,603,842
合計	121,603,842	-	-	121,603,842
自己株式				
普通株式(注)	339,203	513	-	339,716
合計	339,203	513	-	339,716

(注) 普通株式の自己株式数の増加513株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

2 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2018年6月13日 定時株主総会	普通株式	6,063	50	2018年3月20日	2018年6月14日
2018年11月1日 取締役会	普通株式	12,126	100	2018年9月20日	2018年11月22日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年6月14日 定時株主総会	普通株式	12,126	利益剰余金	100	2019年3月20日	2019年6月17日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2017年3月21日 至 2018年3月20日)	当連結会計年度 (自 2018年3月21日 至 2019年3月20日)
現金及び預金勘定	437,675百万円	468,206百万円
預入れ期間が3ヵ月を超える 定期預金	157,414	202,311
現金及び現金同等物	280,260	265,894

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、安全性の高い債券等の金融資産で運用しております。

デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては取引先の財務状況や取引実績を評価し、財務状況等の悪化による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。有価証券及び投資有価証券は、主として信用度の高い公社債等を対象としているため、信用リスクは僅少です。

有価証券及び投資有価証券は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、定期的に時価を把握し、継続的に保有の妥当性を検討しております。

支払手形及び買掛金並びに未払法人税等は、1年内の支払期日であります。

デリバティブ取引は、外貨建定期預金に係る為替の変動リスクに対するヘッジを目的とした為替予約取引であります。当該取引に関しては内規に基づき、リスク回避の目的以外のものを禁止しており、振当処理の要件を充たしているものについては振当処理を採用しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

「デリバティブ取引関係」注記におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及び差額

前連結会計年度(2018年3月20日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
現金及び預金	437,675	437,675	-
受取手形及び売掛金	160,276	160,276	-
有価証券及び投資有価証券()	802,493	854,918	52,425
資産計	1,400,445	1,452,870	52,425
支払手形及び買掛金	10,645	10,645	-
未払法人税等	58,799	58,799	-
負債計	69,444	69,444	-

時価を把握することが極めて困難なものは含まれておりません。

当連結会計年度（2019年3月20日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
現金及び預金	468,206	468,206	-
受取手形及び売掛金	169,342	169,342	-
有価証券及び投資有価証券()	951,796	1,014,421	62,624
資産計	1,589,345	1,651,969	62,624
支払手形及び買掛金	6,309	6,309	-
未払法人税等	46,789	46,789	-
負債計	53,099	53,099	-

時価を把握することが極めて困難なものは含まれておりません。

(注)1 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

現金及び預金、受取手形及び売掛金、支払手形及び買掛金並びに未払法人税等

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

有価証券及び投資有価証券

株式は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。譲渡性預金は時価が帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

デリバティブ取引

「デリバティブ取引関係」注記を参照ください。

(注)2 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

前連結会計年度（2018年3月20日）

非上場株式（連結貸借対照表計上額543百万円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、有価証券及び投資有価証券には含めておりません。

当連結会計年度（2019年3月20日）

非上場株式（連結貸借対照表計上額571百万円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、有価証券及び投資有価証券には含めておりません。

(注)3 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額
前連結会計年度(2018年3月20日)

	1年以内(百万円)	1年超5年以内(百万円)
現金及び預金	437,675	-
受取手形及び売掛金	160,276	-
有価証券及び投資有価証券		
その他有価証券		
国債・地方債	50,000	-
社債	-	30,000
譲渡性預金	320,000	380,000
合計	967,951	410,000

当連結会計年度(2019年3月20日)

	1年以内(百万円)	1年超5年以内(百万円)
現金及び預金	468,206	-
受取手形及び売掛金	169,342	-
有価証券及び投資有価証券		
その他有価証券		
社債	10,000	125,000
譲渡性預金	385,000	410,000
合計	1,032,548	535,000

(有価証券関係)

1 その他有価証券

前連結会計年度(2018年3月20日現在)

	種類	連結貸借対照表 計上額(百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	6,017	764	5,252
	(2) 債券	60,051	60,031	19
	(3) その他	-	-	-
	小計	66,068	60,796	5,271
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	3	3	0
	(2) 債券	19,984	19,989	5
	(3) その他	700,000	700,000	-
	小計	719,987	719,992	5
合計		786,055	780,788	5,266

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額543百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上表の「その他有価証券」には含めていません。

当連結会計年度(2019年3月20日現在)

	種類	連結貸借対照表 計上額(百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	4,763	628	4,134
	(2) 債券	75,100	75,013	86
	(3) その他	-	-	-
	小計	79,863	75,641	4,221
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	130	141	10
	(2) 債券	59,976	59,983	7
	(3) その他	795,000	795,000	-
	小計	855,106	855,125	18
合計		934,969	930,767	4,202

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額571百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上表の「その他有価証券」には含めていません。

(デリバティブ取引関係)

1 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

通貨関連

前連結会計年度(2018年3月20日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)
為替予約等の振当処理	為替予約取引 売建 米ドル	外貨建定期預金	109,961	-	(注2)

(注)1 時価の算定方法

連結会計年度末の為替相場は先物相場を使用しております。

2 為替予約等の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている外貨建定期預金と一体として処理されているため、その時価は、当該外貨建定期預金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(2019年3月20日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)
為替予約等の振当処理	為替予約取引 売建 米ドル	外貨建定期預金	160,055	-	(注2)

(注)1 時価の算定方法

連結会計年度末の為替相場は先物相場を使用しております。

2 為替予約等の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている外貨建定期預金と一体として処理されているため、その時価は、当該外貨建定期預金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社及び主要な国内子会社につきましては、前払退職金制度と、確定拠出年金制度を採用しております。また、一部の在外子会社につきましては、確定拠出型の制度を設けております。

2 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自 2017年3月21日 至 2018年3月20日)	当連結会計年度 (自 2018年3月21日 至 2019年3月20日)
前払退職金制度及び確定拠出年金制度等に係る 退職給付費用(百万円)	1,447百万円	1,732百万円

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産および繰延税金負債の発生的主要原因別の内訳

	前連結会計年度 (2018年3月20日)	当連結会計年度 (2019年3月20日)
繰延税金資産		
賞与引当金	2,496百万円	2,492百万円
たな卸資産	7,673	6,529
未払事業税	2,819	2,287
その他	2,194	2,298
繰延税金資産合計	15,184	13,608
繰延税金負債		
子会社の留保利益に係る 繰延税金負債	4,772	5,541
投資有価証券	1,596	1,284
その他	8	153
繰延税金負債合計	6,378	6,979
繰延税金資産の純額	8,806	6,628

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

前連結会計年度と当連結会計年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が、法定実効税率の100分の5以下であるため、当該差異の原因となった主な項目別の内訳の注記を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、電子応用機器の製造・販売を中心に事業活動を展開する単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 2017年3月21日 至 2018年3月20日)

1 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービス区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%超であるため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

国内	海外				合計
	米国	中国	その他	計	
246,259	78,798	64,435	137,353	280,587	526,847

(注) 売上高は当社及び子会社の国又は地域における売上高であります。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

国内	海外	合計
15,524	5,901	21,426

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 2018年3月21日 至 2019年3月20日)

1 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービス区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%超であるため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

国内	海外				合計
	米国	中国	その他	計	
275,117	86,938	69,700	155,340	311,978	587,095

(注) 売上高は当社及び子会社の国又は地域における売上高であります。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

国内	海外	合計
17,399	7,044	24,443

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

当社グループは、電子応用機器の製造・販売を中心に事業活動を展開する単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

項目	前連結会計年度 (自 2017年3月21日 至 2018年3月20日)	当連結会計年度 (自 2018年3月21日 至 2019年3月20日)
1株当たり純資産額	11,388円79銭	13,097円93銭
1株当たり当期純利益金額	1,736円65銭	1,864円91銭

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

2 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 2017年3月21日 至 2018年3月20日)	当連結会計年度 (自 2018年3月21日 至 2019年3月20日)
1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益金額(百万円)	210,595	226,147
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益金額(百万円)	210,595	226,147
普通株式の期中平均株式数(株)	121,264,954	121,264,318

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

該当事項はありません。

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (百万円)	143,213	293,902	440,584	587,095
税金等調整前 四半期(当期)純利益金額 (百万円)	78,955	162,077	241,726	319,860
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益金額 (百万円)	55,637	113,727	169,746	226,147
1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	458.81	937.85	1,399.81	1,864.91

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり 四半期純利益金額 (円)	458.81	479.03	461.96	465.10

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (2018年3月20日)	当事業年度 (2019年3月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	356,084	378,620
受取手形	25,908	27,705
売掛金	¹ 123,426	¹ 118,523
有価証券	365,055	389,999
たな卸資産	² 27,045	² 28,999
繰延税金資産	6,111	5,415
その他	3,868	5,712
貸倒引当金	45	29
流動資産合計	907,454	954,947
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	4,688	4,653
工具、器具及び備品	2,830	4,487
その他	157	411
有形固定資産合計	7,676	9,553
無形固定資産		
その他	4,984	5,581
無形固定資産合計	4,984	5,581
投資その他の資産		
投資有価証券	416,455	540,479
関係会社株式	16,772	16,772
関係会社出資金	126	126
その他	1,236	1,317
貸倒引当金	61	61
投資その他の資産合計	434,529	558,633
固定資産合計	447,189	573,767
資産合計	1,354,644	1,528,715

(単位：百万円)

	前事業年度 (2018年3月20日)	当事業年度 (2019年3月20日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	8,445	4,760
未払法人税等	55,190	43,519
賞与引当金	7,101	6,890
その他	10,452	13,388
流動負債合計	81,189	68,558
固定負債		
その他	1,292	896
固定負債合計	1,292	896
負債合計	82,482	69,455
純資産の部		
株主資本		
資本金	30,637	30,637
資本剰余金		
資本準備金	30,526	30,526
その他資本剰余金	10	10
資本剰余金合計	30,537	30,537
利益剰余金		
利益準備金	692	692
その他利益剰余金		
別途積立金	1,015,803	1,197,803
繰越利益剰余金	194,544	200,375
利益剰余金合計	1,211,039	1,398,871
自己株式	3,658	3,689
株主資本合計	1,268,556	1,456,356
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	3,605	2,903
評価・換算差額等合計	3,605	2,903
純資産合計	1,272,162	1,459,260
負債純資産合計	1,354,644	1,528,715

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 2017年3月21日 至 2018年3月20日)	当事業年度 (自 2018年3月21日 至 2019年3月20日)
売上高	1 430,701	1 458,423
売上原価	85,700	90,890
売上総利益	345,001	367,532
販売費及び一般管理費	2 71,498	2 79,998
営業利益	273,502	287,534
営業外収益	1 1,983	1 3,248
営業外費用	391	544
経常利益	275,094	290,238
税引前当期純利益	275,094	290,238
法人税、住民税及び事業税	83,680	83,609
法人税等調整額	2,533	607
当期純利益	193,947	206,020

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 2017年3月21日 至 2018年3月20日)		当事業年度 (自 2018年3月21日 至 2019年3月20日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
材料費		70,106	74.7	72,395	73.2
外注加工費		14,516	15.5	15,261	15.4
労務費		2,800	3.0	3,095	3.1
経費					
1 減価償却費		1,307		1,652	
2 製造消耗品費		1,956		2,273	
3 その他		3,167		4,263	
経費計		6,431	6.9	8,189	8.3
当期総製造費用		93,855	100.0	98,941	100.0
期首仕掛品たな卸高		4,802		6,368	
他勘定振替高	2	3,788		5,691	
期末仕掛品たな卸高		6,368		5,674	
当期製品製造原価		88,500		93,943	

(注)1 当社の原価計算は、組別工程別実際総合原価計算を採用しております。

2 他勘定振替高の内訳は、次のとおりであります。

前事業年度 (自 2017年3月21日 至 2018年3月20日)		当事業年度 (自 2018年3月21日 至 2019年3月20日)	
仕掛品他勘定振替高		仕掛品他勘定振替高	
固定資産へ振替	1,405百万円	固定資産へ振替	1,560百万円
販売費及び一般管理費へ振替	1,413百万円	販売費及び一般管理費へ振替	2,157百万円
その他	970百万円	その他	1,973百万円
合計	3,788百万円	合計	5,691百万円

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2017年3月21日 至 2018年3月20日）

（単位：百万円）

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金 合計
					別途積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	30,637	30,526	6	30,533	692	926,803	104,755	1,032,251
当期変動額								
剰余金の配当							15,158	15,158
当期純利益							193,947	193,947
別途積立金の積立						89,000	89,000	-
自己株式の取得								
自己株式の処分			4	4				
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）								
当期変動額合計	-	-	4	4	-	89,000	89,788	178,788
当期末残高	30,637	30,526	10	30,537	692	1,015,803	194,544	1,211,039

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	3,608	1,089,813	2,657	2,657	1,092,470
当期変動額					
剰余金の配当		15,158			15,158
当期純利益		193,947			193,947
別途積立金の積立		-			-
自己株式の取得	50	50			50
自己株式の処分	1	5			5
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）			948	948	948
当期変動額合計	49	178,743	948	948	179,691
当期末残高	3,658	1,268,556	3,605	3,605	1,272,162

当事業年度（自 2018年3月21日 至 2019年3月20日）

（単位：百万円）

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金 合計
					別途積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	30,637	30,526	10	30,537	692	1,015,803	194,544	1,211,039
当期変動額								
剰余金の配当							18,189	18,189
当期純利益							206,020	206,020
別途積立金の積立						182,000	182,000	-
自己株式の取得								
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）								
当期変動額合計	-	-	-	-	-	182,000	5,831	187,831
当期末残高	30,637	30,526	10	30,537	692	1,197,803	200,375	1,398,871

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	3,658	1,268,556	3,605	3,605	1,272,162
当期変動額					
剰余金の配当		18,189			18,189
当期純利益		206,020			206,020
別途積立金の積立		-			-
自己株式の取得	31	31			31
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）			701	701	701
当期変動額合計	31	187,799	701	701	187,098
当期末残高	3,689	1,456,356	2,903	2,903	1,459,260

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、取得原価は移動平均法により算定)を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

2 たな卸資産の評価基準及び評価方法

製品、原材料及び仕掛品

総平均法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)を採用しております。

3 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産

当社は定率法を採用しております。ただし、2007年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。

無形固定資産

定額法を採用しております。

4 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対する賞与支給に備えるため、賞与支給予想額のうち当事業年度負担額を計上しております。

5 重要なヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。

なお、為替変動リスクのヘッジについて振当処理の要件を充たしている場合には振当処理を採用しております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ会計を適用したヘッジ手段とヘッジ対象は以下のとおりであります。

ヘッジ手段・・・為替予約

ヘッジ対象・・・外貨建定期預金

(3) ヘッジ方針

内規に基づき、為替変動リスクをヘッジしております。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ対象の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計を比較し、その変動額の比率によって有効性を評価しております。

ただし、振当処理によっている為替予約については、有効性の評価を省略しております。

6 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式を採用しております。

(貸借対照表関係)

1 関係会社に対する債権・債務

	前事業年度 (2018年3月20日)	当事業年度 (2019年3月20日)
売掛金	54,677百万円	46,466百万円

2 たな卸資産の内訳

	前事業年度 (2018年3月20日)	当事業年度 (2019年3月20日)
製品	9,857百万円	12,909百万円
仕掛品	6,368	5,674
原材料	10,819	10,415

(損益計算書関係)

1 関係会社に対するものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2017年3月21日 至 2018年3月20日)	当事業年度 (自 2018年3月21日 至 2019年3月20日)
売上高	197,145百万円	198,436百万円
受取配当金	1,550	2,686

2 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度55%、当事業年度54%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度45%、当事業年度46%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2017年3月21日 至 2018年3月20日)	当事業年度 (自 2018年3月21日 至 2019年3月20日)
給料手当及び賞与	30,943百万円	33,528百万円
賞与引当金繰入額	5,668	5,508
研究開発費	12,982	15,521

(有価証券関係)
子会社株式及び関連会社株式
前事業年度(2018年3月20日)

(単位:百万円)

区分	貸借対照表計上額	時価	差額
関連会社株式	4,517	68,863	64,345
計	4,517	68,863	64,345

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式

(単位:百万円)

区分	貸借対照表計上額
子会社株式	12,254
計	12,254

上記については、市場価格がないため、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。

当事業年度(2019年3月20日)

(単位:百万円)

区分	貸借対照表計上額	時価	差額
関連会社株式	4,517	79,451	74,933
計	4,517	79,451	74,933

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式

(単位:百万円)

区分	貸借対照表計上額
子会社株式	12,254
計	12,254

上記については、市場価格がないため、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2018年3月20日)	当事業年度 (2019年3月20日)
繰延税金資産		
未払事業税	2,759百万円	2,223百万円
賞与引当金	2,180	2,101
その他	1,658	1,668
繰延税金資産合計	6,598	5,993
繰延税金負債		
投資有価証券	1,576	1,274
その他	37	35
繰延税金負債合計	1,614	1,309
繰延税金資産の純額	4,983	4,684

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (2018年3月20日)	当事業年度 (2019年3月20日)
法定実効税率	-	30.7%
(調整)		
受取配当金等永久に益金に算入され ない項目	-	0.3
税額控除	-	1.6
その他	-	0.2
税効果会計適用後の法人税等の負担率	-	29.0

(注) 前事業年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が、法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：百万円)

資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却 累計額
有形固定資産						
建物及び構築物	4,688	282	1	315	4,653	13,585
工具、器具及び備品	2,830	4,244	58	2,528	4,487	21,931
その他	157	1,955	1,695	5	411	263
有形固定資産計	7,676	6,482	1,756	2,849	9,553	35,780
無形固定資産						
その他	4,984	2,109	369	1,143	5,581	-
無形固定資産計	4,984	2,109	369	1,143	5,581	-

【引当金明細表】

(単位：百万円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	106	29	45	91
賞与引当金	7,101	6,890	7,101	6,890

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	3月21日から3月20日まで
定時株主総会	毎事業年度終了後3ヵ月以内
基準日	3月20日
剰余金の配当の基準日	9月20日 3月20日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り・買増し	
取扱場所	(特別口座) 大阪市中央区伏見町3丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	-
買取・買増手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。当社の公告掲載URLは次のとおり。 https://www.keyence.co.jp
株主に対する特典	なし

(注) 当会社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができません。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利
- (4) 株主の有する単元未満株式の数と併せて単元株式数となる数の株式を売り渡すことを請求する権利

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しています。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類、有価証券報告書の確認書

事業年度（第49期）（自 2017年3月21日 至 2018年3月20日）2018年6月14日関東財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

2018年6月14日関東財務局長に提出。

(3) 四半期報告書、四半期報告書の確認書

（第50期第1四半期）（自 2018年3月21日 至 2018年6月20日）2018年8月2日関東財務局長に提出。

（第50期第2四半期）（自 2018年3月21日 至 2018年9月20日）2018年11月2日関東財務局長に提出。

（第50期第3四半期）（自 2018年3月21日 至 2018年12月20日）2019年2月4日関東財務局長に提出。

(4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）の規定に基づく臨時報告書

2018年6月15日関東財務局長に提出。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2019年6月14日

株式会社キーエンス

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	松尾	雅芳
--------------------	-------	----	----

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	三浦	宏和
--------------------	-------	----	----

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社キーエンスの2018年3月21日から2019年3月20日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社キーエンス及び連結子会社の2019年3月20日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社キーエンスの2019年3月20日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社キーエンスが2019年3月20日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。
 - 2 XBRLデータは監査の対象には含まれておりません。

独立監査人の監査報告書

2019年6月14日

株式会社キーエンス

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	松尾	雅芳
--------------------	-------	----	----

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	三浦	宏和
--------------------	-------	----	----

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社キーエンスの2018年3月21日から2019年3月20日までの第50期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社キーエンスの2019年3月20日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれておりません。